

「伊仙中学校の文化財探訪の取組」

1 学校名

伊仙町立伊仙中学校

2 学年・人数

3年生（計34人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和4年9月22日（木）文化財ウォッチング

（面縄貝塚，徳之島カムイヤキ陶器窯跡，他）

令和4年9月～10月 学習会(事後学習・発表資料作成)：総合的な学習の時間

(2) 発表の日時・場所

令和4年10月21日(金)

伊仙町立伊仙中学校 「令和4年度 文化祭」

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特長について

(1) 名称・時代

- ・ 面縄貝塚（おもなわかいづか）：縄文時代
- ・ 徳之島カムイヤキ陶器窯跡（とくのしまかむいやきとうきかまあと）：平安時代後期～鎌倉時代

(2) 特長

- ・ 面縄貝塚

徳之島最南端の海岸砂丘上及び石灰岩地帯に立地する，縄文時代後期を中心とした集落跡。1928年に発見されて以降，九州南部や沖縄地域とを繋ぐ土器群が出土した。奄美・沖縄地域の縄文時代における海岸砂丘上及び石灰岩地帯に立地する集落遺跡の典型であり，九州島と沖縄地域との間に位置することから，両者の関係性の解明にとって重要な存在となっている。

- ・ 徳之島カムイヤキ陶器窯跡

11世紀後半から14世紀前半頃（平安時代の終わりから鎌倉時代）に陶器が生産された窯跡。1983年に発見された。発見地の字名「亀焼」（地元の発音でカムイヤキ）にちなんで名付けられた。

窯跡は東西約 1.5 km ，南北約 800mの範囲に，7支群に分かれて分布し全体で100基ほど存在する。窯体は平面形が「いちじく」状を呈する地下式窖窯である。

ここで生産された焼き物は，鹿児島県本土の一部，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，先島諸島から出土しているが，これは距離にして約 1200km 以上あり，生産と流通の在り方を知る上で重要である。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間を利用して、校外学習として文化財探訪の取組を実施した。伊仙町教育委員会社会教育課職員に案内・解説をしていただきながら各史跡を巡った。その後、生徒は調べてきたことを基に更に資料を調べるなどして発表資料を作成した。

6 活用の取組の工夫した点

グループごとにまとめる史跡を決めて、イラストや実際に撮影してきた写真等を活用しながら、分かりやすくまとめるよう心掛けた。

7 取組の様子（学習発表会での掲示）



【喜念権現での案内・解説】



【面縄貝塚での風葬墓の解説】

8 参加生徒の感想等

- ・ 貝塚では、大昔の人たちがどんな生活をしていたのかが分かっておもしろかったです。
- ・ カムイヤキでは、焼かれた陶器が徳之島から台湾や九州などに運ばれていたことに驚いた。
- ・ 今回の校外学習で、カムイヤキや他にもたくさんの伊仙町の自然や文化を知ることができた。ただの畑に見えるところがカムイヤキ陶器窯跡だったので、身近にまだまだ知らないことがたくさんあることが分かったし、もっと徳之島の歴史や自然、文化について調べてみたいと思った。